

2023 年度

(令和 5 年度)

施政方針

2023 年 2 月

安芸高田市

目 次

1. はじめに	1
2. 行財政運営の基本方針	1
3. 主な事業	2
(1)教育の推進	2
(2)福祉の充実	3
(3)生活基盤の整備	4
(4)産業の振興	5
(5)文化の発信	5
4. おわりに	6

1. はじめに

市政運営に関する所信と 2023 年度当初予算における主要施策の概要について説明します。

今年は、毛利元就が郡山城に入城して 500 年という節目の年です。この機を捉え、様々な記念行事を通じて市民の一体感を醸成し、市の発展に繋げていきます。

また、安芸高田市が誕生して 20 年が経過しようとしています。市を維持していくためには、大きな変化が必要です。力を一つにし、心の一つにし、市民の皆さまとともに「世界で一番住みたいと思えるまち」を築いていきます。

2. 行財政運営の基本方針

それでは、行財政運営の基本方針について説明します。

新型コロナウイルス感染症が発生してから約 3 年が経過し、社会経済活動はゆっくりとですが元に戻ってきています。少なからず人々の意識と行動に変化が生じ、自粛の雰囲気は和らぎました。

一方で、本市が抱える構造的な問題については、依然として楽観が許されません。財政説明会において「20 年後の危機」という言葉を使ったとおり、このままでは 2040 年頃にも財政は行き詰まる見込みです。人口動態によって地方交付税が 23 億円減少し、扶助費が 15 億円増加する見込

みです。つまり、市の財政から合わせて 38 億円の裁量が失われます。少子高齢化が止まらない以上、こうした状況を前提に対処していくしかありません。

「20 年後の危機」を回避するためには、「公共施設等総合管理計画」に基づき 2034 年度までに公共施設の総延床面積を 30%以上削減し、可能な限り更新費用を抑制する必要があります。また、上下水道においては受益者負担の適正化に基づいて料金を見直し、一般会計から上下水道事業への繰出金を削減する必要があります。さらに、長期的な視点では、市のコンパクト化を促し、インフラ資産の更新費用を削減していく必要もあります。安芸高田市を「続ける」ためには「変える」しかありません。

抜本的な改革に向けて、市役所においては人材育成の強化を図ります。新たに導入した「360 度評価」の対象を拡大するなど、多面的な評価によって個々人の能力を高めていく方針です。組織力の向上を通して、事務事業の効率化を進め、持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

3. 主な事業

続いて、2023 年度の主な事業について説明します。

(1) 教育の推進

1 点目は、**教育の推進**です。

中学校の統合においては、子どもたちにとって望ましい環境を整備するという観点から、最新で最上の学校を目指して検討を進めます。また、小学校の統合は、2024 年 4 月の統合に向けた準備と川根小学校の閉校関

連事業に取り組みます。

学校教職員の働き方改革にも注力します。教職員に代わって用務を担う人員を各校に配置するとともに、中学校の部活動指導員を拡充し、教職員の負担を軽減すると同時に専門性の高い指導者を確保する計画です。

市内の高校については、これまで「魅力化」を支援してきました。引き続き、各校が描いた特色ある生徒育成プランを戦略会議の中で深め、高校応援プロジェクト補助金によって実現を応援していきます。

(2) 福祉の充実

2点目は、福祉の充実です。

子育ての環境を整えるため、既存施設の改修で児童クラブを整備し、高宮町の児童クラブを統合します。

保育所では、食事用エプロン等のサブスクリプションを導入するといった費用を新たに補助し、保育士の負担軽減を図ります。また、吉田町の保育所・幼稚園を統合し、認定こども園を整備するため、基本構想の作成とともに関係者との調整を進める方針です。

妊娠・出産から子育てまでの支援を行う「ネウボラ」については、新たに発達相談と低所得妊婦の初回産科受診料を助成し、体制を拡充します。

介護予防としては、健康とどけ隊健康教室の対象を若い世代まで拡大した上で、保健師と管理栄養士が出向き、抜本的な市民の健康増進に取り組んでいきます。

(3) 生活基盤の整備

3点目は、**生活基盤の整備**です。

災害への備えとして、河川の監視カメラと水位計の情報をリアルタイムで確認できる市独自のウェブサイトを構築し、市民の迅速な避難行動を支援します。

公共交通は、お太助バスやお太助ワゴンといった公共交通網を再編するための具体的な計画となる「公共交通利便増進計画」を策定します。

空き家対策としては、空き家解体費用のシミュレーションを活用し、補助金の拡充によって老朽危険空き家の解体を促進させます。

上下水道事業は、人口減少による料金収益の減少や施設の老朽化に伴う更新費用の増加に対応するため、再編整備やダウンサイジングなど施設の最適化を進めます。また、受益者負担の原則に基づき適正な料金改定を行い、可能な限り一般会計からの繰出金を削減し、事業の独立採算性を高めます。

循環型社会の実現に向けては、効果的な3R活動を啓発します。リデュースとして、環境の教育と指導を芸北広域環境施設組合と連携して行い、ごみを減量化します。リユースとして、地域密着型フリーマーケットサイトを活用し、不用品の再利用を推進します。リサイクルとして、小型家電回収ボックスや資源物団体回収による再資源化を図ります。

情報発信は、市公式ラインの機能を拡張し双方向のコミュニケーションを可能とします。また、新たに地域おこし協力隊による「インスタグラ

ムを活用した魅力発信プロジェクト」やホームページデザインリニューアルなど、既存の発信媒体を充実する計画です。

(4) 産業の振興

4点目は、**産業の振興**です。

サンフレッチェ広島のマザータウンとして、今シーズンは全試合のパブリックビューイングを道の駅三矢の里あきたかたで開催するとともに、サンフレッチェ広島レジーナをスタジアムで応援するなど、応援者の拡大に取り組みます。さらに、サッカー公園の人工芝グラウンドを再整備し、ユースの育成とスポーツの振興に注力する計画です。

商工業においては、サテライトオフィスの誘致や起業支援を推進します。また、地域課題の解消に向けた事業者等の誘致に取り組み、将来に向けた官民連携を促進します。

農業については、これまで実施したモデル地区での有害鳥獣対策の成果を全市に展開します。IOT 機器等を活用した効率的な捕獲手法の普及に取り組む方針です。

(5) 文化の発信

5点目は、**文化の発信**です。

毛利元就の入城 500 年に当たり、多くの記念事業を企画しています。歴史民俗博物館で元就関連の公開講座や企画展を開催するほか、市民参加型の事業を実施する計画です。

「神楽」については、関西圏での知名度をより一層高めるため、毛利三兄弟に縁のある北広島町と三原市の協力を得て、規模を拡大して大阪公演を2023年5月に開催します。「EXPO2025 大阪・関西万博」の出演を目指し、「神楽」を世界へ発信していく方針です。

4. おわりに

変化は自らの意思で選べます。この1年間で、本市には全国初、中国地方初、県内初という取り組みが幾つか始まりました。この小さなまちで起きた大きな変化です。個人においても、組織においても、社会においても変化は起こせます。

変化こそが可能性です。新たに真に統合されたまち“新/真・安芸高田市”の実現に向けて、市民の皆さまにはご理解とご協力をお願いします。